

健康教育研究センター主催

スポーツと教育2019

ーパラリンピックの楽しみ方ー



限界まで鍛え上げた肉体を駆使し、
体の機能を最大限に生かしながらパフォーマンスする姿をどのような形
で楽しむ方法があるのか？

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催まで、残すところ300日を切った。

パラリンピックは、1964年東京大会より名称が使用され、東京では2回目のパラリンピックを迎えることになる。障がいを持ったアスリートが、日々のトレーニングにおいて、限界まで鍛え上げた肉体を駆使し、体の機能を最大限に生かしながらパフォーマンスする姿は、まさにスーパーマンといっても過言ではない。

来年の東京パラリンピックでは、パラアスリートの姿を試合会場で観戦する機会に溢れている。

そこで、今回は「パラリンピックの楽しみ方」をテーマに、様々な立場からパラリンピックの楽しみ方について話していただく。



ふじた もとあき
藤田 紀昭氏

日本福祉大学教授 筑波大学大学院修了

(公財)日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長、(一社)日本ボッチャ協会理事、スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員
著書に「障害者スポーツの環境と可能性」(創文企画)、「パラリンピックの楽しみ方」(小学館)などがある



そね ゆうじ
曾根 裕二氏

大阪体育大学教育学部
准教授

一般社団法人
日本ボッチャ協会
強化コーチ(BC4)



たかくわ さき
高桑 早生氏

所属：NTT東日本 陸上競技【T64(下肢切断)クラス】選手

1992年(平成4年)5月26日生、埼玉県出身 27歳 中学生(13歳)の時に骨肉腫で左下腿を切断。義足となり、高校から本格的に陸上競技を始める。
2012年ロンドンパラリンピック100m7位入賞、200m7位入賞。2016年リオデジャネイロパラリンピック100m8位入賞、200m7位入賞、走幅跳5位入賞。
3大会目となる東京2020パラリンピックではメダル獲得を狙う。
片下腿義足クラス(2017年までT44)女子100m日本記録&アジア記録保持者(13"43)、女子200mアジア記録保持者(28"77)

日時

令和2年 **1月18日** **土** 13:00~16:00
(開場 12:00)

主催

玉川大学 教育学部 健康教育研究センター

会場

University Concert Hall 2016 [106]

対象

玉川学園 児童・生徒・保護者 および教職員
玉川大学大学生

参加費

無料